

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日. Values include 4071102133, 有限会社 ケイユーカンパニー, グループホーム ソレイユ, 福岡県福岡市南区老司1丁目11番11, 令和6年2月7日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

関連施設に病院(精神科・内科)があり、急変時や疾患に対して即、主治医や関連部署と連携します。入院加療が必要な時も可能な限りベッドを確保し、主治医が入院中も引き続き診察していただくことや入院中に必要なオムツや衣服、日用品の手配なども行い、ご家族の負担軽減にも努めています。また、長期入院加療が必要となり、ソレイユを退去となってもそのまま関連病院にて入院継続が可能です。その後身体状況が改善され、ソレイユでの生活が可能であると主治医が判断した場合は再度ご入居を案内いたします(事例あり)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, URL: https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kani=true&jigyosyoCd=4071102133-00&ServiceCd=320&Type=search

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路沿いに立地しており、玄関を出てすぐのところにバス停もあり交通の利便が良いところである。関連事業所の医療機関とも連携をとり、医療面での支援は手厚く、利用する本人や家族、職員にとっても安心につながっている。この数年は感染症対策のために地域との交流や行事、外出等を見送ってきたところで、今後は再開していく意向である。勤続年数が長い職員も多く、日々の支援は年長者への敬意を念頭に取り組んでいる。事業所が所在する地域は福祉事業所との連携活動が盛んな地域であり、小学校や中学校、婦人会等との交流も多い。福祉事業所マップの作成を通して高校生との交流事例もある。施設長は後進の育成の機会ととらえ積極的に取り組んでいる。これからも地域福祉の拠点として活躍することが期待できる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Values include 公益社団法人福岡県介護福祉士会, 福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階, 令和6年2月29日.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印, 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印. Rows 58-64 describe staff attitudes, user support, and safety, with corresponding evaluation results.

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに理念を掲げ共有し、実践している。	理念は事業所開設当初からの内容を継承している。各フロアや職員休憩室に掲示しており、職員の目にも入りやすいところにある。理念に特化して振り返る機会を設けていないものの、職員は利用者一人ひとりに敬意をもって支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	校区の事業所ネットワークに所属し、事業所間の連携だけでなく、地域の活動に参加している。	自治会に加入している。校区にある医療福祉系事業所で立ち上げている連絡会の活動に参加し、認知症サポーター養成講座や小中学校の福祉体験講座の手伝いをしている。ボランティアサークル等の訪問受入れを再開していく意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所ネットワークにて公民館などで行われている認知症サポーター養成講座等に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動の報告や現在の状況、介護や福祉に関する時事などを報告。ご家族様や行政担当者との意見交換を行っている。	感染症対策のため書面開催をしてきたが、令和5年5月より集合形式の運営推進会議を再開している。地域包括支援センター、家族、施設長が参加している。近隣の薬局や歯科医師による勉強会をすることもあり、口腔ケア講習などをした事例もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営及び人員の基準や法令に関する事を相談している。	市担当課とは運営面での相談をすることが多く、人員配置に関することで助言を受けている。近隣事業所と立ち上げている連絡会を通じて認知症介護に関する地域活動への協力依頼を受けることがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3ヶ月1回以上の開催と研修等を行い、身体拘束廃止に関する理解を深めて情報を共有している。	身体拘束の対象となる行為について、職員は概ね理解をしている。日々の支援の中で言葉かけが相応しくない場面を見つけた場合は、施設長が当事者に確認をするようにしており、今後は職員間でも気づき、注意しあえる関係を目指しているところである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権擁護・虐待防止委員会と当該内容の研修を行い、高齢者の虐待防止を学び、啓発を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権擁護・虐待防止委員会と当該内容の研修を行い、認知症の方の人権擁護を学び、啓発を行っている。	権利擁護に関する制度を活用している事例がある。入居相談の時点で説明しており、関連病院経由で入居する場合には、転院時点で制度活用の推奨をしている。制度活用についての橋渡しをする体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書と重要事項説明書を説明し同意を得ています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でのご意見やご意見箱を設置し得た情報を共有している。	意見や要望については、個別の依頼内容が多い。家族を預けている立場からなかなか意見などを言いにくいであろうことを慮り、事業所外に相談窓口があることは知らせている。運営推進会議に参加を呼び掛けており、参加しやすい日の設定を検討しているところである。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半期ごとに業務評価を実施と面接を行い、得た意見や情報を協議し、反映している。	職員から運営に関する意見等があった場合は施設長と話し、施設長から代表者につなぎ検討をしている。利用者への直接支援に関わる時間が増えるよう、現在、食事提供について、一部は副食を外部発注に切り替える検討をしており、月に数日、試行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期ごとに業務の自己評価と管理者評価を実施。勤務や労働状況を把握し、職場環境改善や条件の整備を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	左記内容に十分配慮している。また、外国の方も積極的に採用している。	職員の採用については特別に条件などを設けていない。希望休暇や有給休暇は取得できしており、職員それぞれの都合による勤務交代等も柔軟に対応ができています。必要な研修等は勤務扱いとして参加ができています。介護に関する資格取得をめざす職員が多い。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権擁護・虐待防止委員会と当該内容の研修を行い、基本的人権の尊重と人権擁護を学び、啓発を行っている。	利用者に対する人権を尊重する支援のあり方について内部研修で学習する機会がある。一人の年長者として尊厳をもって接することを職員は心掛けている。家族からの要望等で本人が気づきやすいように名前を呼ぶこともある。今後は外部の研修に参加する意向がある。	認知症介護に関わらず利用者へのケアと職員の教育は同時に進めることが求められている。人権に関する項目を含め外部研修への参加と伝達研修の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、研修を受ける機会を確保している。また、関連病院での研修等にも参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	校区の事業所ネットワークに所属し、事業所間の連携と情報提供及び共有を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートや診療情報提供書などを入居前に開示し、情報共有を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の施設見学や面接時、契約時などのコミュニケーションを大切に、寄り添えるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からと事前に収集した情報に偏らず入居後の情報を申し送り等で共有している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言葉遣いや接遇に気配りしている。ご本人の呼称も、苗字に拘らずにご本人の希望やご家族の希望、認知症症状を加味した対応を取り入れて良い関係の構築に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の利用料請求時にお手紙や写真を同封し、日頃の状況などの共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り馴染みの関係の継続を支援するが、友人や親せき等から面会や様子伺いの連絡があった場合、キーパーソンへまず連絡して個人情報保護の観点からも慎重に支援を行っている。	レクリエーションの一環で回想法に取り組んでいた事例があり、昔話などからなじみのある話題を聞き出すことがある。繁華街等に買い物に行くこと等は、感染予防の観点から現状では困難な面もあるが、季節の花見に出かけること等は再開している。知人の面会や入居の確認等は慎重に対応している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の様子や認知症症状を考慮し、関係構築が困難な場合はフロアの移動を検討している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	重度化の指針にて退去(長期入院加療)した後のフォローや相談支援を行うよう明記している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症症状を考慮し、出来る限りご本人の意向やご家族の思いを反映できるよう努めている。	利用者の心身の重度化に伴い、自からの要望を表出することが困難ななかでも、話の内容から意向のくみ取りを行っている。要望を聞いた時には介護計画や日々の支援に反映させている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集に努め、出来る限り生活環境の変化による不安や心配を排除するようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報に捕らわれずに広い視野で心身の状況把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化や異変に気づいたらすぐに申し送りにて検討し、それらを介護計画に反映するようにしている。	コロナ禍において職員対応の調整が叶わずケース会議が開催できない時期があり朝礼で話し合いの機会としている。職員は担当制としており、介護計画に関わっている。今後、ケアマネジャーを中心に介護計画書の管理ソフト等活用しながらケース会議を再開していく意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子観察や記録を基に情報を共有し介護計画の見直しや実践を行うようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	有償・無償や負担金の有無などの経済的な面に配慮し、事業所ネットワークなどの力を借りて柔軟な支援ができるよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや事業所ネットワークを通じて地域資源や社会資源を活用していきたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の有無を確認し、ある場合は当施設主治医と連携して継続した医療を受けられるよう支援している。	入居時に施設長から、事業所の協力医について説明をすると、主治医を協力医に交代することが多い。法人関連の医療機関は24時間対応可能である。内科、精神科、歯科の往診があり、指示により眼科や整形外科に行くこともある。個別の対応もしており、セカンドオピニオンでの検査等や説明を受けるために職員も付き添った事例がある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関連病院による在宅総合診療を受けており、主治医及び看護師とは常に連携し、看護・介護関係なく情報を共有して支援を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関連病院の主治医や相談員と連携し、入院加療が必要な際は、速やかにベッドを確保し入院を支援している。退院時も主治医及び病棟看護師長と連携し、ご本人やご家族の無理のない移送などを含む退院支援を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を定め、入居時とその状況になった各段階にて主治医、ご家族、事業所の三者にて情報を共有し、終末期に向けた支援を行っている。	事業所での看取りは行っておらず、医療的ケアが必要な状況になった場合は関連病院の療養型病棟へ移ることになっている。転院して手続き上退居となった場合も、本人の回復状況により再入居となる事例もある。突発的な事態に遭遇し、対応した職員を含めしっかりとフォローをした事例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の応急手当や初期対応の定期的な訓練はできていない。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の年2回うち、一回は水害を含めた避難訓練を行っている。	令和4年夏に近隣を含め事業所1階が水没した経緯がある。近所からの応援はなく職員の人海戦術で、3階に垂直避難をしている。有事の際は移動するよりも耐震構造の事業所で待機することがよいと消防署からの助言を得ている。備蓄品は3日分を3階で保管しており、職員は周知している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束廃止委員会や人権擁護・虐待防止委員会及び研修にて「スピーチロック」について学び、啓発活動を行っている。	内部研修で、利用者一人ひとりのかかり方についてあらためて学習する機会を得ている。スピーチロックに該当する場面を見受けた場合はお互いに気をつけ合うようにしている。日頃の支援場面で肌の露出が多い排泄介助や浴室での支援は羞恥心への配慮と室温管理にも気づけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自己決定を尊重し、職員による意思誘導は出来る限り行わず、ご家族などに助言を求めるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の自己決定を尊重し、職員による意思誘導は出来る限り行わず、ご家族などに助言を求めるように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を保つ事を念頭に置き、ご本人の希望に沿った整容の支援に努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の残存機能や認知症の特性を把握した家事のお手伝い支援や提案を行っている。	関連事業所病院の栄養士による献立で食材が届き職員が作っている。糖尿病食や減塩食の対応、医師からのカロリー管理、歯科医から本人の口腔状況によりトロミのつけ方や食事形態の指示がある。利用者のその日の心身状況により食材の下拵えや後片付けをしてもらっている。月に1回弁当屋から配達してもらったり、敬老会・クリスマス会など行事食もと入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連病院の主治医や栄養士と連携し、食に関する支援と歯科医による嚥下機能評価を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力病院の歯科医院と連携し、毎週の口腔ケア及び口腔内の管理を実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄機能を把握し、出来る限りトイレやポータブルトイレで排泄できる事の継続が図れる支援を行っている。	1人ずつに合わせた排泄のサイクルを確認しながら支援を行っている。排泄の自立支援について職員は心がけており、入院のきっかけでオムツ着用になった場合、退院後はリハビリパンツへの移行に努めている。皮膚観察にも努めており、褥瘡予防の研修を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	関連病院の主治医や看護師、事業所内の看護師と連携して個々の排便状況を共有して対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日お風呂の準備を行い、個々の認知症の特性や身体状況を把握及び考慮した入浴時間や曜日、回数を実施している。	各フロアに浴室があり、シャワーチェアなどを活用しながら安全に入浴の支援をしている。週2～3回は入浴しており、身体状況によっては清拭対応をしている。トイレから浴室までが隣接しておりその時々で速やかに移動ができ清潔の保持に務めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間の定めはあるが、その日の状態などに合わせて柔軟に対応している。また、夜間にお腹が空いたなどの訴えに対応できるようお菓子などを準備している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	関連病院の主治医や薬局の担当者と連携し、急な処方などに対応している。また、配薬時の誤薬事故を未然に防ぐため、配薬とそれを確認する役割分担を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクや季節行事への参加を促し、一緒に笑ったり、楽しむことができるよう努めている。また、個々の楽しみ(手編みなどの手芸)の時間も尊重し、楽しんでいただいている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の感染状況を把握し、安全な範囲での外出支援に努めている。	利用者の心身状況からマスクの着用は難しく、天候の良い時に敷地内の庭にでたり、近くの河川沿いを散策したりしている。コロナやインフルエンザの感染拡大状況を見ながら、今後は外出の機会を増やしていきたい意向であり、車いすのまま乗れる車両を増台している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解を得て少額のお金やお財布を所持していただき、安心感や周辺症状の緩和に努めている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リモート面会ができる環境を整備しており、ご本人やご家族の希望に添えるよう努めている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りや季節に応じた装飾品で生活空間に季節感や安寧を促せるよう努めている。	各フロアには利用者と職員が季節の飾りを一緒に作り楽しんでいる。レクリエーションも1日1回行い、歌や体操・言葉遊びを行っている。対面キッチンのため食事の準備の匂いが生活感につながっている。尿臭防止に特化した消臭剤や消毒等の使用により快適な共用空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席配置には常に配慮を行い、口論やトラブル、各々の性格や認知症の特性を考慮した配置を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の嗜好や安全性及び衛生面を最大に考慮した生活空間の提供に努めている。	ベッドとエアコンは備え付けのものとなっている。使い慣れた道具やオーディオセット、本人の好きなぬいぐるみや飾り物を持ち込んでいる。家族との写真や本人の作品なども飾っている。居室内で排泄ケアの対応をする場合にも臭気対策をしっかりとおこなっており居心地よく過ごせるよう配慮をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレなどの認識が困難な方がいらっしゃる場合は、名前やそれぞれの名称を掲示し、安心して生活できる支援を行っている。		